洗足

駅開業100年で祭り

歴史クイズ巡る
目黒の新アプリも活用

スマにゃん（右）と気仙沼のホヤぼーやも参加

東急目黒線の洗足駅が開業100周年となったのを記念し、洗足商店街振興組合が「洗足100年祭」を3月11日に開催した。

駅前ふれあい広場では、小・中・高校生がダンスや吹奏楽を披露したり、いちょう並木にちなみ、いちょうの葉の形に切った紙に願い事を書いて木を完成させるワークショップを行ったり。気仙沼物産展や、住民から募った昔の洗足の写真を展示するコーナーも。

中でも、街を歩きながら文化を知れる「洗足れきしクイズラリー」は、晴天に恵まれて大盛況だった。

クイズの設置場所はスマホアプリで巡る2コース、台紙を使う1コースの計15店。各コース5問ずつ、クイズと3択の答えが示されている。

「目黒線で目黒区にある駅はいくつ？（一つ）」「洗足に昔あった東急の前身、田園都市株式会社の創設にかかわりのある人物は？（渋沢栄一）」「地上にあった洗足駅が地下化されたタイミングは？（1964年東京五輪）」――。

スマホの場合は、全5問正解すると、参加店で2日間使える50円券がデジタルでもらえ、さらにデジタル福引で賞品が当たるチャンスもあった。

今回使ったアプリは都の2022年度デジタル化推進事業で開発した目黒区商店街連合会の「めぐーる」で、イベント実用は初めて。今後、区内の各商店街で活用予定という。

なつかしい写真に見入る人たち

スマホで使うデジタル商品券

また、当日の司会や運営は区商連「ミライ会議」に関わる高校生や大学生に任せたといい、依田悦子理事長は「若いパワーは貴重。今後も学生と一緒に商店街活性化と新たな街づくりに取り組んでいけたら」と話している。

東京都

若手と女性を応援
商店街での起業に助成も

東京都は、2023年度の「若手・女性リーダー応援プログラム助成事業」と「商店街起業・承継支援事業」を活用したい人の募集を始めた。商店街の新たな担い手を発掘するとともに、空き店舗の減少や商店街会員の増加を促す取り組み。

「若手・女性」事業は、女性または24年3月31日時点で39歳以下の男性が対象。都内商店街で開業を予定し、実店舗を持っていない人に助成する。

店舗の新装、設備の購入、宣伝・広告など「事業所整備費」（助成率4分の3以内、限度額400万円）や、新たに店舗を借りる場合の「賃借料」（同4分の3以内、1年目は月15万円まで）などの経費を助成する。

一方、「起業・承継」事業は、都内商店街の店舗で開業したり事業承継による店舗改装をしたりする人が対象。

助成率3分の2以内で事業所整備費として250万円まで、賃借料として1年目は月15万円まで支援する。

助成対象期間は交付決定日から1年間（賃借料は2年間）。

第1回申請は4月4日から21日まで書類を受け付け、書類審査と面接の後、8月1日に交付決定の予定。

今後、第2回（6月26日～）、第3回（9月25日～）の申請もある。

問い合わせは都中小企業振興公社助成課（☎03・3251・7894）へ。

商店街大学からジャンプアップ

若手も参画しやすく

野方商店街（振）
第20期生　大和 靖浩さん

私は、店舗のDX事業やセールスプロモーション事業などを行う企業に勤め、コンサルタントをしています。

商店街での活動としては、キャッシュレス化を進める事業に関わったことをきっかけに、理事長とお話をする機会が増えました。

キャッシュレス勉強会など色々と企画したもののコロナ禍でとん挫したのですが、各店の方々とも顔なじみになり、定期的にイベントの企画や開催のお手伝いをするようになっています。

商店街大学を受講したのは、卒業生でもある理事長からの推薦です。もともと地域活性化に興味があり、人脈をつくりたい、他の商店街の取り組みを知りたい、と思い受講しました。

視察したキラキラ橘商店街（墨田区）は、うまく経営されていて、ブランド化できているなと感じました。

下北沢（世田谷区）は、交流してみたい街です。野方では2022年6月から月1回、路上ライブをやりたい人などを募り魅力発信ステージ「TSC（To Spread Charm festival）」を設けていて、親和性ありそうです。

卒業生と知り合えたのも収穫でした。立川南口連合会（立川市）では商店街や店をモンスターに見立てたトレーディングカードを作ったと聞き、後日、見せてもらいに行きました。野方でも作れたら面白いですね。

野方も十分、来街者の多い街ですが、例えば移動販売イベントをやるとか、もっと外の人から注目してもらえるようなアピールが必要だと思います。若い店主たちが店をやりながらでも商店街活動に参画でき、かつ店の売り上げにもつながるような仕組みも考えていきたいです。

「夜ゆっくりしたい時は、近所の行きつけのバーへ。仕事帰りに１人で寄ります」

千代田

寺社で「桜」集めよう
商連も区の祭りに一役

スタンプ台は街の神さまでもある佐竹稲荷神社にも置かれた

国と都による行動制限が解除されたことを受け、千代田区では4年ぶりに「千代田のさくらまつり」が開催された。区と観光協会の主催。

これに合わせて千代田区商店街連合会も3月15～26日に「ミニさくらフェスティバルスタンプラリー」を実施し、盛り上げに一役買った。

ラリーはスタンプポイントを神田地区では神田明神、麹町地区からは日枝神社など各4社選び設定。商店会と関係が深く、境内もしくは近くに桜の名所があることから選定した。

神田地区ではJR水道橋駅すぐ、神田川に日本橋川が交わる通り沿いの桜並木にほど近い三崎稲荷神社。どこにも桜がないように見えて実は穴場スポット、神田警察通りが近所の神田駅西口商店街に鎮座する佐竹稲荷神社や、お隣の出世不動通り商店会にある出世不動尊――。

対して麹町地区は、外堀や北の丸公園、千鳥ヶ淵、靖国通りという桜の名所に囲まれた中から平河天満宮、築土神社、東京大神宮にスタンプ台を設けた。

公式サイトではおすすめコースマップも作成。ランドマークを挙げての道案内やポイント近隣の商店会を紹介し、「桜を見ながらの散歩や、近くの商店会の気になるお店でお食事も」と促した。

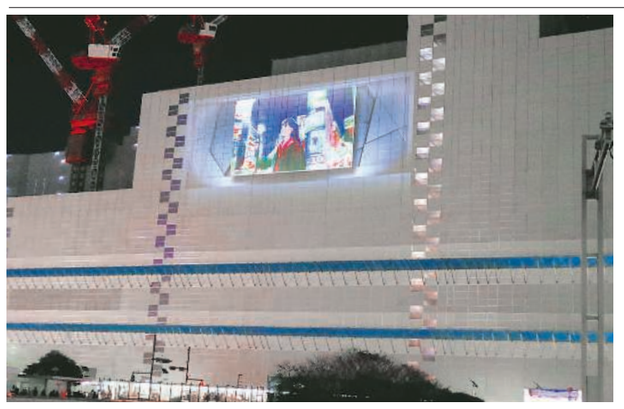
スタンプも花びらの形にし、祭りの詳細が掲載された公式ガイドマップ内の台紙に押していく方法で、連帯感を持たせた。

集めたスタンプは、24～26日に行われた抽選会で提示、当たれば5万円分の商品券などがもらえた。

スタンプは全部で8個

新宿

都がPマッピング
夜を彩る観光資源へ


解体工事現場を覆うシートに投影される映像

東京都は3月6日から、東京の夜を彩る新たな観光資源をつくることを目的として、新宿駅西口の再開発エリアでプロジェクションマッピング（プロジェクション）のトライアル投影を始めた。

場所は2022年10月に営業を終了した小田急百貨店新宿本館の解体工事現場の壁面。縦20㍍、横30㍍の大きさで、午後6時半から8時半まで1時間おきに10分程度流れる。

映像は、都が国内外へ向け東京の魅力を発信しているサイト「Tokyo Tokyo」で公開しているコンセプトビデオと、昨年のプロジェクションマッピング国際大会（東京都主催）での受賞作。

「Old meets New」と題した東京を象徴する建造物や場所、食べ物や小物などが次々映し出されるコンセプトビデオを、色鮮やかなプロジェクションマッピング画像がつなぐ。

このトライアルは2021年3月に策定された「『未来の東京』戦略」の中の、戦略15文化・エンターテインメント都市戦略「魅力ある観光コンテンツ創出プロジェクト」の一環で、8月末まで続けられる予定。

各区市振連・区市商連会員様
ネタ探してます！
新しい取り組みや紹介したいイベントなど情報をお寄せください
東京都商店街振興組合連合会　広報課
Fax：03-3542-0236　または
Mail：news@toshinren.or.jp

マスク着用は個人の判断だけど
引き続きコロナ対策をしよう

油断は禁物

３密は避けよう

手洗いと消毒を
続けよう

換気も忘れずに